

2016 Jikji International Road Race レポート 第1ステージ

2016-0516 発信

大会初日、第1ステージを迎えた。



7:00 に朝食を摂り、身支度を済ませスタート地点である韓国MBCテレビの本社へ移動した。昨晚の予報では雨天予報であったが、朝方には雨も上がりドライコンディションでスタートを迎えることができた。

予定通り10:00にMBC本社前をパレードスタート、8



分後にパレードが解除されリアルスタートとなった。

10km 地点で相葉（九州学院③）が遅れていたため、確認すると後輪がパンクしているとのこと。直ちに後輪を交換し集団復帰を目指させるも、集団では早くもアタック合戦が始まっており、集団はペースアップしており、単独で復帰することは叶わなかった。ラジオツールからの何の情報もなく、突然のことであった。

本人曰く、モトCOMに伝えたと言うが、結果として伝わっていなければ同じこと。言葉以外にもジェスチャーも含めて確実に伝えないといけないとアドバイス、以後のステージにいかして欲しい。

25km 地点で5名のアタックが決まったかに見えたが31km 地点で吸収された。40km 過ぎには8名のエスケープグループが形成され、続いて3名、9名の小グループ、そしてメイングループと続いた。

45km 地点ではトップとメイン集団までの差は2分に広がっていた。このタイミングで予定より少し早く補給がOKとの連絡が入った。雨上がりで肌寒い中でのスタートだったが、この頃には気温も上がり始め心配していた雨がウソのようであった。

60km 地点付近で、日本チームが補給を要求集団後方に下がってきた。前方に逃げが決まっているのでペースアップするように指示するも、韓国の全チームが牽制するためどうにもならない様子。予想されたこととはいえ、前半のエスケープに加われなかった時点で上位順は期待できそうもない。

その後もメイングループでアタックと吸収が繰り返され、90km 地点ではメイングループには、満田（千原台③）花田（祐誠③）の2名が残り、栗原（千原台③）成海（普天間②）佐藤（九州学院②）メインより前の逃げ集団にいるようである。この頃にはラジオツールからの情報がほとんど入らず、展開がまったく分からなかった。

100km 地点でテクニカルトラブルの連絡が入り、佐藤がメカトラブル（チェーン落ち）で逃げ集団から遅れ、単独で走行していた。相当な向かい風の中走っており、かなりきつそうであった。

残り 10km で、逃げ集団も 5 つ程度に分かれており、第 2 集団に成海、第 5 集団に栗原、ほかメイン集団？で走行、テクニカルガイドではゴールに向けて激坂が 5km 程度続いていたので、そこまでは温存気味に走って最後にペースアップを考えていたが、まったく坂道は現れず、持ち味を出せずにフィニッシュを迎えた。

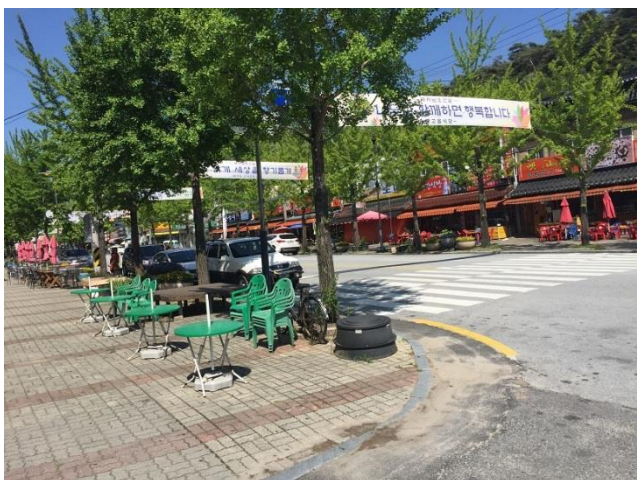


第 1 ステージのフィニッシュ順は、成海 16 位、栗原 22 位、花田 29 位、満田 31 位、佐藤 42 位、相葉 DNF、完走 47 名であった。順位以上にタイム差が開いており、明日から更に厳しいレースが予想される。

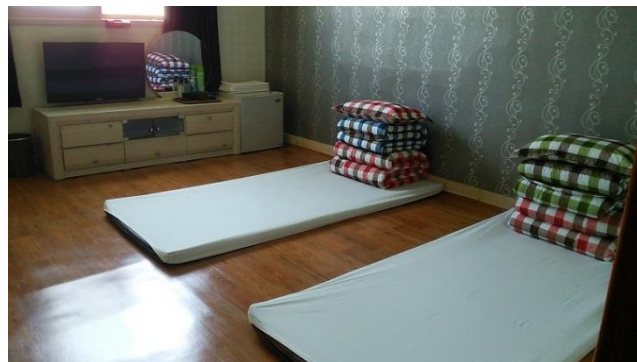
チームの総合順位は 7 位、翌日のサポートカーの順番にも影響するため、スタッフとしては気になるところである。※この大会は個人ランキングで並ぶとのこと。

全コース下見をしてから走るのが理想であるが、派遣日程の関係もありテクニカルガイドに頼らざるを得ない。少し残念な？少し悔しいステージであった。

2 日前に韓国入りしたが、トラブルがない前提で組むなら、出発前日に日本国内（今回なら福岡）に集合し軽く練習、自転車、手荷物等確認し前泊、翌日の朝一便で韓国入りの方が、いいのかな？と思う部分も感じた。次回参加チームには申し送りをしたい。



※ゴール地点の町並み（国立公園の中）、昼食メニュー、2 日目の部屋の様子（布団が固い…）



※順位の詳細は、韓国自転車競技連盟の HP を参照のこと。

文責：中田（全国高体連自転車競技専門部）